

人材開発施策について

障害者人材開発施策の概要

障害者に対する人材開発の推進

1 障害者職業能力開発校の設置・運営 (全19校)

- (1) 国立障害者職業能力開発校 (13校)
 - ① (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構営 (2校)
 - ② 都道府県営 (11校)
- (2) 都道府県立障害者職業能力開発校 (6校)

2 一般の職業能力開発校における障害者の職業能力開発

全国146校設置されている一般校の一部において、一般の訓練科での障害者の受け入れや障害者を対象とした訓練科を設置した上で職業訓練を実施

3 障害者の多様なニーズに対応した委託訓練

企業、社会福祉法人、NPO法人、民間教育訓練機関等、地域の多様な委託先を活用して、職業訓練を実施

4 全国障害者技能競技大会 (アビリンピック) の開催

アビリンピックは、障害がある人々の職業能力の向上を図るとともに企業や一般の人々に障害者への理解と認識を深め、その雇用の促進を図ることを目的として開催

障害者職業能力開発校の概要

- 一般の公共職業能力開発施設において職業訓練を受けることが困難な重度障害者等に対して、その障害の態様に配慮した職業訓練を実施している。

○国立機構営校（2校）

- ・国が設置し、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が運営する障害者職業能力開発校
- ・先導的な職業訓練実施の成果をもとに、職業訓練内容、指導技法等を他の障害者職業能力開発校等に提供することにより、障害者職業訓練全体のレベルアップに貢献

■中央障害者職業能力開発校（国立職業リハビリテーションセンター）

■吉備高原障害者職業能力開発校（国立吉備高原職業リハビリテーションセンター）

○国立県営校（11校）

- ・国が設置し、都道府県に運営を委託

■北海道障害者職業能力開発校

■宮城障害者職業能力開発校

■東京障害者職業能力開発校

■神奈川障害者職業能力開発校

■石川障害者職業能力開発校

■愛知障害者職業能力開発校

■大阪障害者職業能力開発校

■兵庫障害者職業能力開発校

■広島障害者職業能力開発校

■福岡障害者職業能力開発校

■鹿児島障害者職業能力開発校

○県立県営校（6校）

■青森県立障がい者職業訓練校

■千葉県立障害者テクノスクール

■岐阜県立障がい者職業能力開発校

■静岡県立あしたか職業訓練校

■京都府立京都障害者高等技術専門学校

■兵庫県立障害者高等技術専門学校

国立障害者職業能力開発校の運営・設備整備

令和8年度当初予算案 46.5億円 (46.9億円) ※()内は前年度当初予算額

1 事業の目的

国が設置している障害者職業能力開発校の運営を高齢・障害・求職者雇用支援機構及び都道府県に委託し、一般の職業能力開発校において職業訓練を受けることが困難な障害者に対して、その障害特性に適応した職業訓練を実施する。また、老朽化等により、訓練生の安全や校舎の維持管理面で緊急性が高い改修工事等を実施する。

2 事業の概要・スキーム



障害者職業能力開発校（都道府県営校）

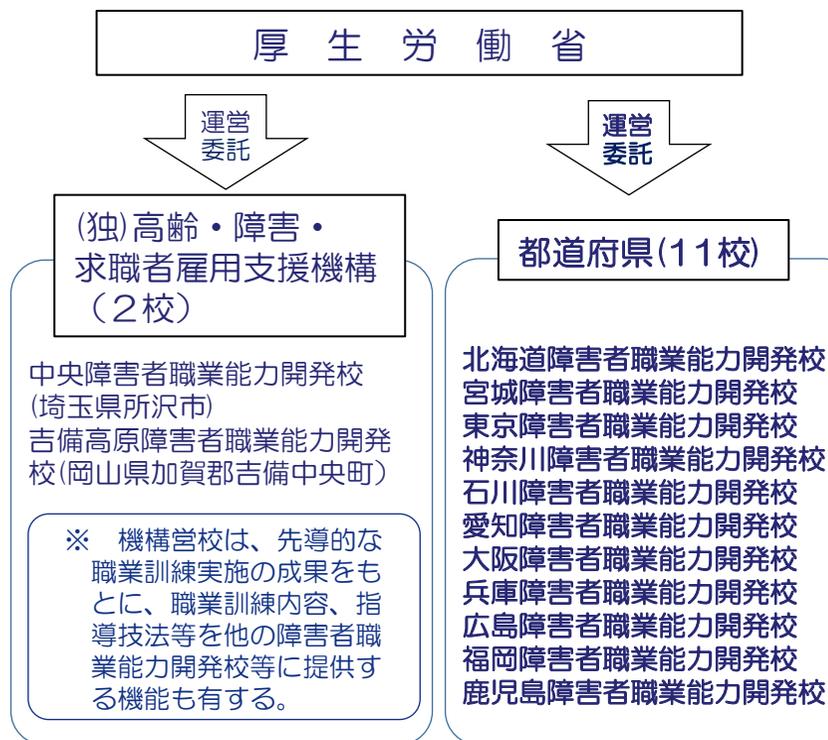
<対象者> 障害者の雇用の促進等に関する法律第2条第1号に規定する障害者
・ 障害者手帳を有する者
・ 医師の診断書や意見書等により障害を有することが確認できる者

<訓練内容>

- 訓練期間：6月、1年 等
- 令和7年度の主な訓練科目(例)

【身体障害者等対象】 プログラム設計科、オフィス実務科、OA事務科、Webデザイン科、アパレル科、介護福祉サービス科 等
【精神・発達障害者等対象】 職域開発科、ビジネス実務科 等
【知的障害者等対象】 総合実務科、ワークサービス科 等

3 実施主体等



障害者の多様なニーズに対応した委託訓練

令和8年度当初予算案 16.2億円 (16.0億円) ※ ()内は前年度当初予算額

1 事業の目的

求職障害者等に対し、当該障害者の住む身近な地域で障害者の態様や障害程度に配慮した多様な職業訓練機会を確保・提供することで障害者の就職促進を図る。また、障害者職業能力開発校だけでなく、47都道府県にある一般の職業能力開発校においても、精神障害者等に対する職業訓練の実施が課題となっているため、当該訓練校における精神障害者等の受け入れ体制を強化する。

2 委託訓練事業の概要・スキーム

委託訓練実施機関 (民間団体)

訓練受講④

<対象者> 障害者の雇用の促進等に関する法律第2条第1号に規定する障害者
・ 障害者手帳を有する者
・ 医師の診断書や意見書等により障害を有することが確認できる者

<訓練内容>

- 訓練期間：原則3月以内・月100時間が標準
- 委託費：原則訓練受講生1人当たり月6.4万円又は9.6万円が上限

訓練実施月数に応じた就職支援経費の支給【拡充】

<訓練コース>

- ① 知識・技能習得訓練コース (知識・技能の習得) ※ 障害者向けデュアルシステムも実施可能
- ② 実践能力習得訓練コース (企業等の現場を活用した実践的な職業能力の開発・向上)
- ③ e-ラーニングコース (訓練施設へ通所困難者等を対象としてIT技能等の習得)
- ④ 特別支援学校早期訓練コース (内定を得られない生徒を対象として、在学中から実践的な職業能力の開発・向上)
- ⑤ 在職者訓練コース (雇用継続に資する知識・技能の習得)

受講あつせん③

職場定着支援業務⑤

訓練修了⑥

各種支援機関

障害者

求職申込み①

職業相談②

ハローワーク

職業紹介⑦

就職⑧

企業

3 委託訓練事業の実施主体等

厚生労働省

職業能力開発促進法
第15条の7第3項に
基づき実施

委託契約

都道府県

委託契約

委託訓練実施機関
(民間団体)

NPO法人

社会福祉法人

企業

民間教育訓練機関

4 訓練以外の事業概要

- 1 障害者職業訓練コーディネーターの配置
- 2 障害者職業訓練コーチの配置
- 3 実践能力習得コース等開拓支援事業【拡充】
- 4 精神保健福祉士等外部専門家及び手話通訳の活用
- 5 職業能力開発校(一般校)における精神障害者等の受け入れ体制等の強化【拡充】
精神保健福祉士の配置153人 (131人)

障害者職業訓練実施状況

(単位：人)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	受講者数	就職率	受講者数	就職率	受講者数	就職率	受講者数	就職率	受講者数	就職率
障害者職業能力開発校 における職業訓練	1,525	—	1,566	—	1,476	—	1,447	—	1,474	—
離職者訓練	1,327	62.9%	1,376	64.7%	1,275	70.1%	1,244	68.9%	1,291	70.9%
在職者訓練	198	—	190	—	201	—	203	—	183	—
一般校における 障害者職業訓練	690[285]	71.6%	689[254]	72.7%	793[247]	73.4%	756 [240]	73.6%	777 [231]	80.1%
障害者の多様なニーズ に対応した委託訓練	2,533	—	2,731	—	2,764	—	2,791	—	2,628	—
離職者訓練	2,339	46.4%	2,571	45.1%	2,574	41.2%	2,588	40.4%	2,359	41.0%
在職者訓練	194	—	160	—	190	—	203	—	269	—
合 計	4,748	—	4,986	—	5,033	—	4,994	—	4,879	—

(資料：定例業務統計報告、障害者委託訓練実施状況報告)

注1 就職率は、訓練修了3ヶ月後の就職状況を元に算出。

注2 一般校における障害者職業訓練の就職率は、一般校で設定している障害者対象訓練科の受講者数 [カッコ内] の就職率を算出。

注3 受講者数は当該年度訓練開始者及び前年度繰越者の合計を記載。

アビリンピック（障害者技能競技大会）について

アビリンピックは、障害がある人々の職業能力の向上を図るとともに企業や一般の人々に障害者への理解と認識を深め、その雇用の促進を図ることを目的として開催。「アビリティ（ABILITY「能力」）」と「オリンピック（OLYMPICS）」を合わせた造語。

<職業技能競技種目>

歯科技工、家具、コンピュータプログラミング、機械CAD、ポスターデザイン、洋裁、パソコン組立、ホームページ作成、電子機器組立・テスト、英文ワープロ、フラワーアレンジメント、データベース 等

全国アビリンピック

全国アビリンピックは、1972年（昭和47年）から国際アビリンピック開催年を除いて毎年開催され、各都道府県の代表選手が出場し技能を競う。

■主催：開催県
(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構

■近年の開催実績：

第38回大会（平成30年度）	沖縄県	22種目382人
第39回大会（令和元年度）	愛知県	23種目382人
第40回大会（令和2年度）	機構単独主催	25種目330人
第41回大会（令和3年度）	東京都	25種目370人
第42回大会（令和4年度）	機構単独主催	25種目362人
第43回大会（令和5年度）	機構単独主催	25種目369人
第44回大会（令和6年度）	愛知県	25種目398人
第45回大会（令和7年度）	愛知県	25種目401人

全国アビリンピック
成績優秀者を国際大会に派遣

国際アビリンピック

国際アビリンピックは、国連が定めた「国際障害者年」である1981年（昭和56年）に第1回大会を東京で開催。国際親善を図ることも目的としており、おおむね4年に1度開催。

■主催：国際アビリンピック連合(IAF)、開催国の障害者団体、国際リハビリテーション協会

■近年の開催実績：

	参加国・地域	参加日本選手
第7回大会（平成19年度）	日本・静岡	80人
第8回大会（平成23年度）	韓国・ソウル	31人
第9回大会（平成27年度）	フランス・ボルドー	31人

<第10回 国際アビリンピック（フランス・メッス大会）の概要>

■日程：令和5年3月22日～25日

■参加者数：27か国・地域 329人が参加 ■実施競技種目数：44種目
(日本選手の参加者数 17種目に30人が参加)

■日本選手の結果：金メダル1個（歯科技工）、銀メダル4個、銅メダル3個

※ 第11回大会（令和9年度）は、フィンランド・ヘルシンキにて開催予定



ポスターデザイン

足を使って工夫を凝らしたデザインをコンピュータ上で作成



電子機器組立・テスト

測定器や経験を生かして、オーディオ装置で使用する電子機器を組み立てる



総理大臣から表彰を受けた第10回国際アビリンピック金メダリスト



第10回国際アビリンピックにおいて歯科技工種目で金メダルを獲得した日本選手



国際親善

他国の選手と交流を図る日本選手